

# 安曇野屋敷林 サポーター通信

第6号

発行日/2013年6月10日

編集・発行/屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

連絡先/安曇野ブランド推進室 ☎0263-82-3131

[http://keikan-azumino.net/p\\_yashiki](http://keikan-azumino.net/p_yashiki)

## 「安曇野屋敷林フォーラム2013」のご報告



日時:平成25年3月31日(日) P M2:00~5:00

場所:安曇野市 きぼう(豊科交流学習センター)

### ご挨拶

今日は、年度末のお忙しい中に、村上副市長をはじめ、大勢の方々にご参加いただき誠にありがとうございました。「安曇野屋敷林フォーラム」は今回で実質的には3回目となります。

当プロジェクトは平成20年6月に創立し、平成21年11月に『第一回屋敷林サミット in 安曇野』としてスタートしました。この時は屋敷林の先進地である、砺波や姉妹都市の武野市との3市の屋敷林の違いを発表しました。

第二回目は平成23年10月に『安曇野屋敷林フォーラム2012』として開催しました。本日の講師をしていただく降幡先生もパネリストとして発表いただきました次第です。今回のフォーラムは屋敷林と民家という切り口で、安曇野の景観について考えるきっかけになればと企画しました。屋敷林には多くの機能があります。第一番目は防風林としての役目です。この地方では、タキオロシといわれる北アルプスからの風に対して、家を守る為、先人は屋敷林を作りました。また、夏の日差しから涼しい環境も作ってくれます。また、かつては焼料であり、家具や建材としても利用されました。女の子が生まれると、桐の木を植え、それをタンスとして利用する知恵がありました。

ビオトープの場人々の生活と、屋敷林とは生活の中で深く絡み合い循環していました。しかし、近年はどうでしょう。家の性能も良くなり、かえって落ち葉など日陰の問題で木を植えなかったり、屋敷林も切り倒されて無くなっていく現状です。これは、民家もよく似たところがあり、地域の特長でもある民家と屋敷林は安曇野では失われ続けています。

今回のフォーラムでは安曇野の文化を伝える屋敷林と民家を中心に景観について考えてみたいと思います。

昨年8月に、屋敷林サポーターの方々と破波に行きました。破波では、平成24年4月の強風で高い杉の木が倒れて、家に大きな被害が及び、その為最近は多くの杉の木が伐られてしまう現象だと聞きました。

この地域でも、年に風速21mの強風が吹き大きな被害となっています。家を守るはずの屋敷林ですが、場合によっては逆の話しにもなってしまいます。

破波カインユクラブの柏樹会長も言っていました。100年先をみて、木を植える、木の歴史を考えると1年~2年の短い時間ではなく、100年、200年と先を見通す根気良さも必要だと言われました。

安曇野は全国的にも有名であり、色々ものを発信できる材料もたくさんあると思います。200年、300年の歴史を持った民家も大きな要素です。

皆様、今日は安曇野が発信する文化と景観について考えるきっかけになればと思います。



会場風景



中澤さんの屋敷林

## ■基調講演 民家が教えるもの

～自然との調和 屋敷林その他～

建築家 降幡 廣信 先生



降幡先生は 安曇野における古民家の重要性和屋敷林のある環境の素晴らしさを強調されていました。特にこの地に多く残る本棟造りの住宅の土間を見ても雨の日でも働ける日本人の勤勉さの表れと説明されました。

## ■世界に誇る信州・ふるさと景観づくり

長野県 油井 法典 氏

(株)KRC 小林 真幸 氏

長野県調査されました 信州の景観を全県にわたり発表されました。長野県には 野・平野・谷などがあり さまざまな景観をつくっています。今年度県では景観の写真を集めています。また審査員も地方事務所ごとに大勢募集しているのでご参加ください。

## ■旧保高宿・今後のまちづくりに向けた提言

安曇野ふるさとづくり応援団 宮崎 崇徳 氏

(株)KRC 藤村 忠志 氏



穂高の駅前周辺をみんなで調査をした結果をまとめて発表されました。土蔵の町屋が多い旧道や意外な裏路地、また駅から近いわさび畑など宝がいっぱいです。将来の穂高神の参道の提案や交通の拠点としての広場 また道の歴史など幅広い内容でした。

## ■安曇野市 民家調査の報告

(社)長野県建築士会 安曇野支部 青柳 悟 氏

本年度市から委託された昭和初期以前の調査の発表でした。調査総数は1,100件となり、民家の形態別に分類されました。本棟造りは約170件、茅葺の形体は220件、切妻型が560件との報告でした。民家は屋敷林と共に存在来ることが多く、美しく、懐かしい安曇野の景観に寄与しているものと確信します。

## ■屋敷林&民家 所有者からの報告

屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト 中沢 倫明 氏

中沢さんの屋敷の広さはこの地域においても格段の規模です。民家も改築され周囲の塀や土蔵の蔵ともマッチしていますが、大変高額な維持費もかかります。若い世代が屋敷を受け継ぐときの悩みも含めての発表となり、多くの参加者が共感していただきました。



## ■終りに

4月24日に総会が開かれて、昨年度の事業報告や会計の報告がありました。屋敷林の重要性を啓発することがプロジェクトの最大なミッションと思っていますが、昨年度できなかった、落葉ひろいボランティアなど、今年は是非実施したいと思います。引き続き屋敷林サポーターにご協力賜ればと思います。



文責:場々